

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究計画書、シラバス、適切な科目履修を通じた教育研究体制の整備・運用を行う	→研究科所属教員による、FDのための意見交換会の実施回数	A	A	A	A	A
2. 授業科目ごとにシラバスを作成し、授業がシラバスに沿って、進められているかどうかを学生にアンケートする	→学生アンケートの実施回数	A	B	B	B	A
3. 成績付与の現状を情報として教員間で共有し、成績評価については、学生からの疑義申し立ての制度を整備運用する	→疑義申し立て制度の整備と各学期ごとの定期的な実施	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度においては、外部講師によるFDを開催し、研究教育体制について意見交換を行った。学生に対して「研究準備計画書」、「研究中間報告書」の提出、学会誌への投稿および学会での発表を義務付けることで、チェックポイントを設けきめ細かい指導に当たっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 意見交換会という形式では実施していないが、上記のようにプロセスを確立し教育研究体制を整備・運用している。また研究科委員会(教授会)で指導教員・指導補佐教員、学位進捗状況を確認している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も指導教員・指導補佐教員による集団指導体制のもと、確立されたプロセスの中で教育研究環境を整備・運用する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 講義科目として「先端マネジメント特殊研究」を各分野ごとに複数クラス開講している。そして履修者の研究分野・領域・進捗度を勘案して、講義内容を設定している。学期ごとにアンケートを行い、授業内容について確認している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学期ごとのアンケート結果では、授業に関する不満はなく、シラバスに基づき、履修者にあわせた授業が行われているものと考えられる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後もアンケートを継続し、授業内容を点検する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 成績評価は、各科目における学生の研究報告、学会誌への投稿、学会への参加実績で行われており、同情報については研究指導にあたる教員間で共有されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か これまで学生からの成績疑義申立てはなく、適正な成績付与が行われている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も半期ごとの成績発表および疑義申立ての受付を行う。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	